

# 大学院における図書館情報学教育

図書館情報学教育部会 幹事 松本直樹

# 趣旨

- ・ 大学院における図書館情報学教育は、研究者養成、リカレント教育等、多様な文脈で実施されている。
- ・ その現状を概観するとともに、大学院教育を最近開始した大学院、少人数で教育を行っている大学院などの事例を報告してもらおう。
- ・ 大学院の図書館情報学教育の現況について情報を共有するとともに、今後の課題を考えたい。

# 構成

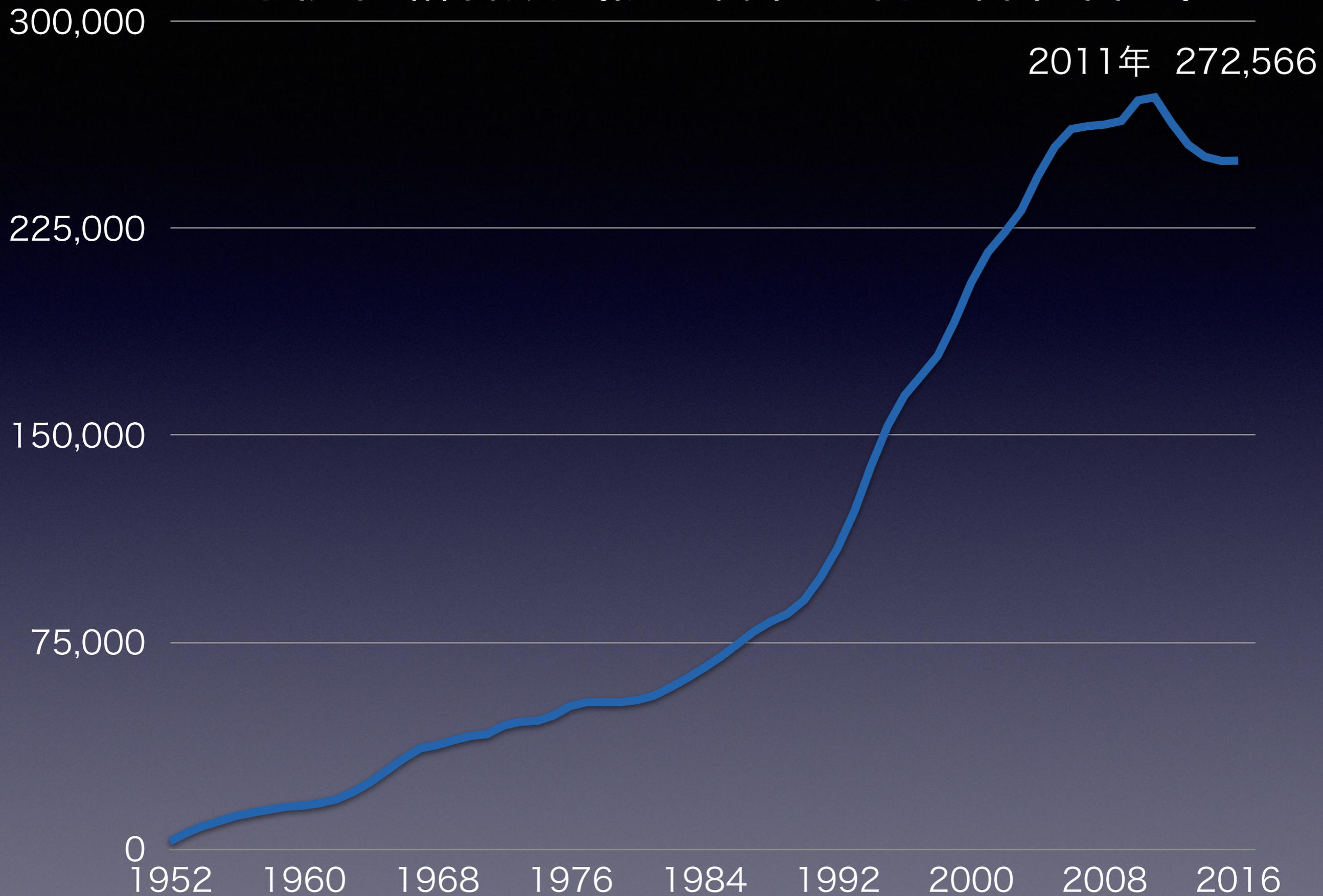
1. 大学院教育の改革とLIS教育
2. 大学院におけるLIS教育
3. 論点整理（洗い出し）

# 1. 大学院教育の改革とLIS教育

# 近年の動向

- ・ 1991年 大学審議会答申「大学院の量的整備について」：大学院の量的拡大
- ・ 2004年 学校教育法改正：大学院の目的に高度専門職業人養成を含むことを明確化，専門職大学院の設置

# 大学院在籍者数（修士課程・博士課程含む）



学校基本調査 年次統計 より

- ・ 2005年 中央教育審議会答申「新時代の大学院教育」：大学院教育の実質化（学位授与へと導く体系的な教育プログラム編成），国際的通用性（質保証活動への参加），信頼性向上（大学院教育の質）がうたわれる
- ・ 大学院は，①研究者，②高度職業人，③大学教員，④高度で知的な素養のある人材，の育成を目指す
- ・ 以降，大学院教育振興施策要綱が策定

- ・ 2006年 Liper：コア領域，情報専門職領域，個別情報領域が提示され基本的に大学院（修士課程）で学ぶことが前提に
- ・ 2008年 「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について」：「図書館の専門的職員の養成に関する大学院での教育体制を整備する方向で関係者間での検討を期待」

- ・ 2011年 中央教育審議会答申「グローバル化社会の大学院教育」
- ・ 課程制大学院制度の趣旨に沿った体系的な教育の確立, 学生の質を保証する組織的な教育・研究指導体制の確立, 教育情報の公表の推進

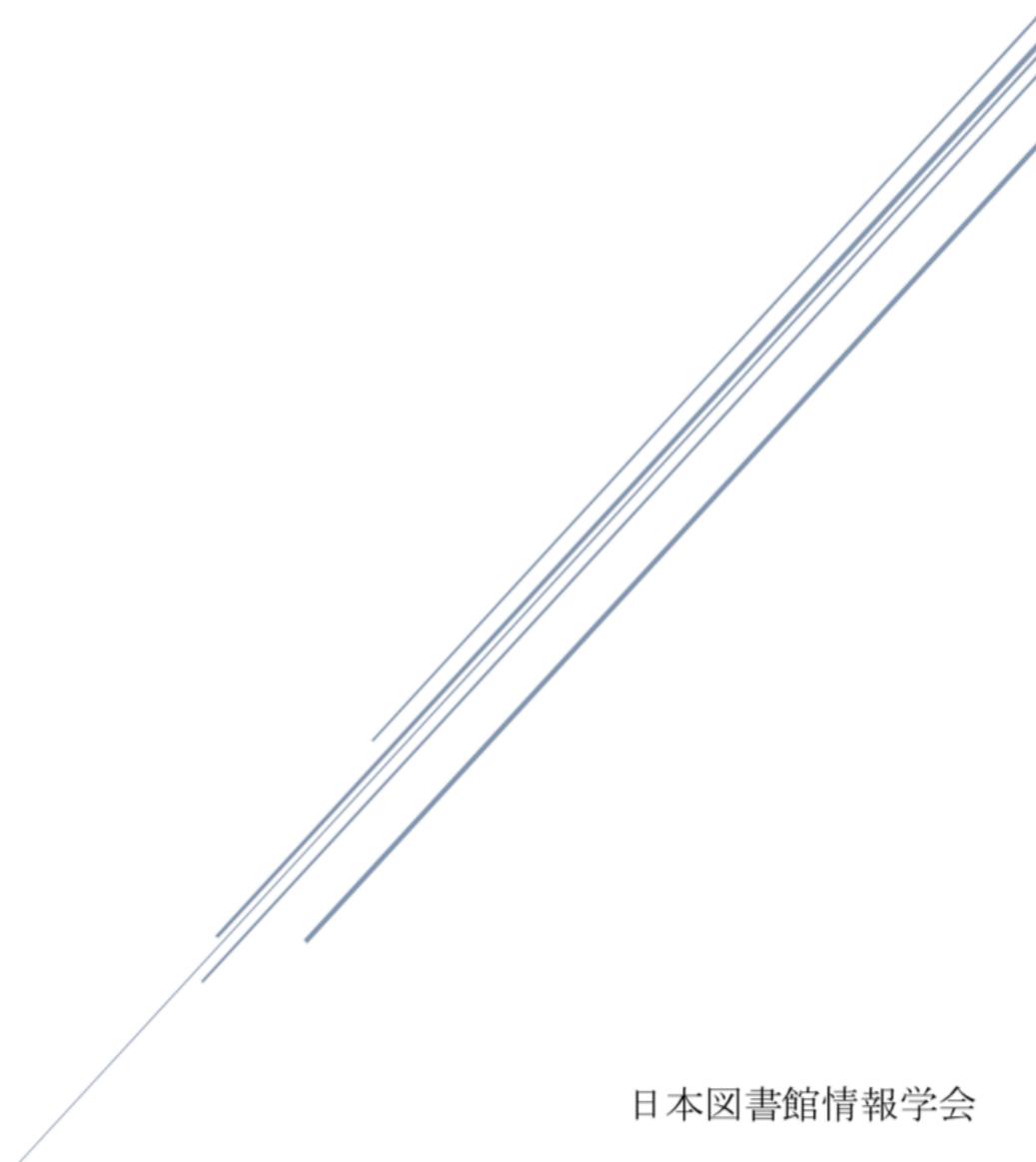
- ・ 2015年 中央教育審議会大学分科会 「未来を牽引する大学院教育改革（審議まとめ）」：3方針策定の促進，社会人向けの職業実践力を育成するプログラムの認定制度創設と奨励等
- ・ 2019年 中央教育審議会大学分科会 「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿（審議まとめ）」：3方針策定の義務付け，コースワークの充実等教育改善

- ・ 大学院の量的拡大
- ・ 情報専門職の大学院修士課程での養成
- ・ 大学院教育の見える化（3方針策定，コースワーク，課程制の実質化）

## 2. 大学院におけるLIS教育

図書館情報学教育の拡がりと今後の方向性  
に関する調査報告書

(2017年3月)



日本図書館情報学会

図書館情報学教育に資する事業ワーキンググループ

入学  
教育  
卒業後

入学

# 修士課程入学試験

大学名	修士試験
筑波大学	<u>英語資格試験スコア</u> , 口述試験
東京大学	<u>外国語（英語）</u> , <u>専門分野筆記試験</u> , 口述試験
慶應義塾大学	<u>専門科目（図書館・情報学）</u> , <u>英語</u> , 口頭試問
愛知淑徳大学	<u>専門分野筆記試験</u> , 面接
同志社大学	小論, <u>英語</u> , 口頭試問
九州大学	小論文, 口頭試問, <u>英語資格試験スコア</u>

書類審査等は除く, 社会人向け試験を除く

# 大学院修士課程の入試倍率

	志願者	合格者	倍率
筑波大学	119	49	2.4
東京大学 (教育学)	315	85	3.7
慶應義塾大学	17	11	1.5
愛知淑徳大学 (文化創造)	1	1	1
九州大学 (統合新領域学府)	106	46	2.3

※公開されている最新の入試データから発表者が作成

# 大学院に在籍する学生数

大学名	修士	博士
筑波大学	128	83
東京大学	2	5
慶應義塾大学	25	6
愛知淑徳大学	1	2
同志社大学	17	---
九州大学	14	11

アメリカ	
人口比	2.7
図書館情報学学部数	50
全専任教員数	805
全学生数 (フルタイム)	9227
修士号取得者数	5978

教育

# 大学院組織

- ・ 大別して2つのタイプがある
- ・ タイプA：大学院の組織名称に「図書館」を含む
- ・ タイプB：「図書館」を含まないが実質的に図書館情報学教育を実施している

# タイプA

- ・ 研究科：筑波大学(2003)
- ・ 専攻・学府：慶應義塾大学(1967), 九州大学(2011)
- ・ 専修・分野・コース：愛知淑徳大学(1989), 京都大学(1953), 同志社大学(1993), 鶴見大学(2019)

※()内は『図書館年鑑』(2014年版)から

# タイプB

- ・ 研究科：桃山学院大学
- ・ 専攻：青山学院大学(1999), 中央大学, 駿河台大学(1999)
- ・ 専修・コース：関西大学, 東京大学(1953), 明治大学
- ・ 『図書館年鑑2014』には以下の大学も掲載。千葉大学(2003), 東京学芸大学(1987), 三重大学(1992), 京都ノートルダム女子大学(2005), 大阪教育大学(1993)

# 主要大学院の教員数（修士課程）タイプA

大学名	教員数
筑波大学	65
慶應義塾大学	8
愛知淑徳大学	8
同志社大学	2
九州大学	12

# 主要大学院の教員数（修士課程）タイプB

大学名	教員数
東京大学	2
青山学院大学	2
中央大学（社会情報学専攻）	1
明治大学（臨床社会学専修）	2
桃山学院大学	1

※専門分野に図書館情報学を挙げている教員の人数

# 社会人を想定したコースを持つ大学院

大学院	実施方法
筑波大学	長期履修制度あり。またキャリアアッププログラムがあり。東京キャンパスで平日夜間および土曜日に授業実施
慶應義塾大学	情報資源管理分野があり夜間，土日などに授業実施
同志社大学	社会人を積極的に受け入れ，夜間，土曜日などで授業を実施
九州大学	社会人用コースはないが長期履修制度あり

卒業後

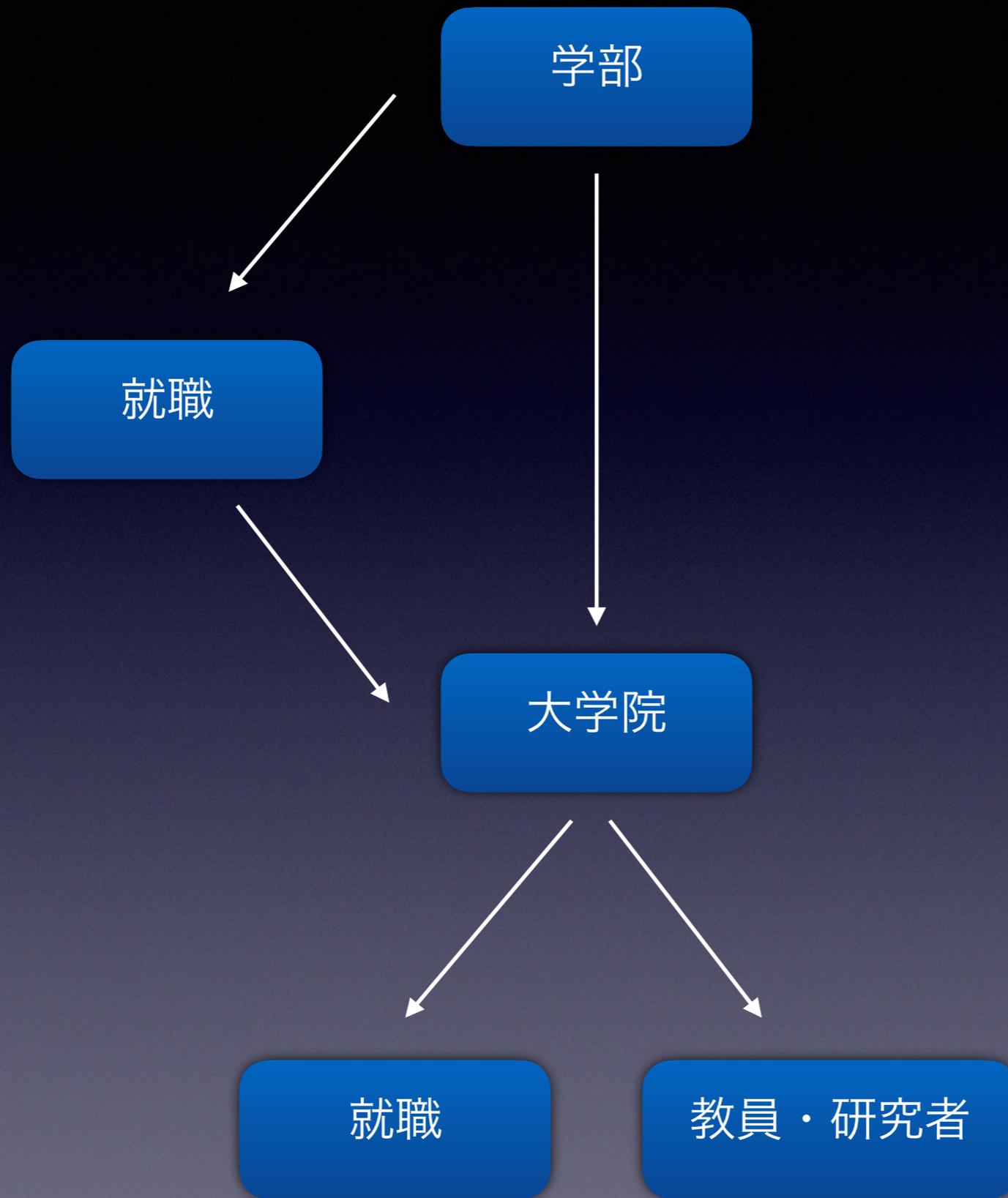
# 卒業後の進路

大学名	進路
筑波大学	進学12%，企業56%，公務員・図書館等15%，その他(就職活動中，帰国)14%，現職有3%
慶應義塾大学	図書館，民間企業，博士課程，現職（情報資源管理分野）
九州大学	公共図書館，レコードマネジメント関係の企業，大学や一般企業等

# 論点整理 (洗い出し)

# 入学対象者はだれか

- ・ 学部生
- ・ 社会人
- ・ 留学生



# 教育の目的はなにか

- ・ 大学教員を養成するのか
- ・ 情報専門職・図書館員を養成するのか（高度職業人養成）
- ・ 情報専門職・図書館員のリカレント教育をするのか
- ・ 広い教養を持つ人物を養成するのか（高度教養人養成）

# 教育をどの範囲で行うのか

- ・ 専攻・研究科・分野の各内部で行うのか
- ・ 専攻・研究科・分野を横断して行うのか
- ・ 大学を横断して行うのか（連合大学院，研究指導の委託等）

# 教育をどのように行うのか

- ・ 伝統的な方法（徒弟的）
- ・ コースワーク：学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修し，基礎的素養と専門知識の応用力等を培う
- ・ 複数専攻制：専門的知識と普遍的なスキル・リテラシー等を身に付ける取組 等々

# リカレント教育のあり方

- ・ 専門職大学院との差異化
- ・ 履修証明プログラム，学位を目的としない短期プログラムとの差異化
- ・ 柔軟な受講を可能にする仕組み（標準修業年限，E-learningプログラム等）の必要性

# 大学における履修証明プログラム例（過去実施含む）

大学	履修証明プログラム
筑波大学	図書館経営管理コース
鶴見大学	図書館員リカレント教育コース
千葉大学	アカデミック・リンク教育・学修支援専門職養成履修証明プログラム
上田女子短期大学	図書館職員学び直し講座
桃山学院大学	学校司書養成講座， 学び直し講座

# その他の論点

- ・ 質保証の仕組み（大学院における標準的カリキュラムのガイドライン化等）
- ・ 国際的対応（英語での授業）
- ・ 経済的支援の制度設計
- ・ キャリアパスの提示
- ・ 職業的汎用能力 / ソフトスキルの扱い

# 趣旨

- ・ 大学院における図書館情報学教育は、研究者養成、リカレント教育等、多様な文脈で実施されている。
- ・ その現状を概観するとともに、大学院教育を最近開始した大学院、少人数で教育を行っている大学院などの事例を報告をしてもらおう。
- ・ 大学院の図書館情報学教育の現況について情報を共有するとともに、今後の課題を考えたい。

# 論点

- ・ 大学院における図書館情報学教育のあり方について
  - ・ 専門職への入り口として行うべきか， 現職者に行うべきか
- ・ 教育は徒弟的に行うべきか， 組織的に行うべきか
  - ・ 指導教員， 専攻， 研究科， さらに・・・